【未然防止の対応】　「危機管理マニュアル（大会運営の流れについて）」

資料NO．１

県中体連事務局　：　会長　理事長
事務局長

＜連絡事項＞
・大会中止や
注意喚起等

連絡

報告

＜報告事項＞
・災害（地震・台風等）
・事件・事故（救急搬送）等
・競技の中止・中断・再開
・競技の結果
・その他連絡事項

（　　）専門部　：（　　）部　長
（　　）委員長

・全国瞬時警報システム（Jアラート※緊急地震速報を含む）、気象状況等情報収集
・感染症等の情報収集
・会場・競技場の状況確認（破損・水溜）

〇総務省消防庁サイト
〇内閣官房国民保護ポータルサイト
〇宇都宮気象台サイト
〇ナウキャスト　etc

競技実施の判断

中止・延期

専門部員に連絡
★連絡体制確認
（一斉メール・HP掲載等）

＜役員・補助員集合＞
・出欠確認、健康チェック、業務内容の確認
・緊急体制の確認、AED設置場所、消火器の確認
＜会場・施設・設備の安全点検＞

※係分担を明確にする。
（分担例）
〇会場主任・・・
〇会場（環境）係・・・
〇救護係・・・
〇防犯係・・・
など

実　施

開会式（開始式）

・事故防止に関する注意事項の説明
・緊急避難経路、避難場所の確認

競技開始

※　大会責任者（会場責任者）は、チェックリストを活用し、事故等の未然防止に努める。

＜競技中＞
・競技者の健康管理（熱中症等注意喚起）
・自然災害等に関する情報収集
・不審者等防犯体制の確保
・会場、施設、設備、観客席、周辺施設等の安全点検

災害時発生対応マニュアル

閉会・解散

【未然防止の対応】

資料NO. ２－１

「危機管理マニュアル（事故・感染症等防止のための安全チェックリスト）」

専門部名	会場名	チェック日	記載責任者
専門部		月　日（　）	（　　）

１　WBGT指数を記載

時刻	WBGT値	計測者氏名	時刻	WBGT値	計測者氏名	時刻	WBGT値	計測者氏名
8:00			11:00			14:00		
9:00			12:00			15:00		
10:00			13:00			16:00		

２　代表的な事故例

①	
②	
③	
④	
⑤	

３　施設・設備・用具チェック

□	会場入り口の消毒、手洗い場に石鹸等が設置されているか。
□	
□	
□	
□	
□	

４　活動チェック

□	大会、打合せを室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行っているか。
□	換気設備が適切に運転しているか。
□	
□	
□	
□	
□	
□	
□	

５　救急体制

□	
□	
□	
□	
□	
□	

６　実際にあった事故やヒヤリ・ハット事例を記載

【未然防止の対応】

資料NO. 2―2

「危機管理マニュアル（事故防止のための安全チェックリスト）」

専門部名	会場名	チェック日	記載責任者
専門部		月　日（　）	（　　）

1　WBGT指数を記載

時刻	WBGT値	計測者氏名	時刻	WBGT値	計測者氏名	時刻	WBGT値	計測者氏名
8:00			11:00			14:00		
9:00			12:00			15:00		
10:00			13:00			16:00		

1　代表的な事故例

これまでの事例や、日頃のヒヤリ・ハット体験等を参考

①	投てき器具が当たる。（回りにいる選手に衝突）
②	トラックを走っている選手とトラックを横切った選手が衝突する。
③	高跳びのマットから落ちたり、バーの上に落下。怪我をする。
④	熱中症になる。（春季大会もあり得る）
⑤	スパイクのピンによる怪我。

2　施設・設備・用具チェック

安全管理の徹底をする！

□	会場入り口の消毒、手洗い場に石鹸等が設置されているか。
□	走路の凸凹など、危険物を事前に確認し、十分整備をしているか。
□	信号機、紙雷管の安全確認をしているか。
□	スターティングブロックの点検は十分か。
□	ハードルの腐食や割れなどないか。
□	高跳びの支柱、バー、マットの破損はないか。
□	砂場の着地場所を深く掘り起こし、整地されているか。
□	器具や用具の整理整頓はなされているか。
□	各種目ごとにウォーミングアップの場所が確保されているか。

3　活動チェック

常に危機意識を持って！

□	大会・打合せを室内で実施する場合、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行っているか。
□	換気設備が適切に運転しているか。
□	練習場所の安全確保について、事前に打合せを行ったか。
□	健康状態の確認をしたか。
□	ウォーミングアップ・クールダウンを十分行わせているか。
□	レーンを横断する際に、安全を確認してから行動させているか。
□	跳躍や投てきは、声で周知してから試技を行わせているか。
□	跳躍は前の試技者が確実に出たことを確認してから開始させているか。
□	投てきの周囲にいるものは、落下するまで目を離さない体制にしているか。
□	暑さ対策や水分補給を行わせているか。
□	天候状況ついて、情報を常に確認しておく。

4　救急体制

備えあれば憂いなし！

□	緊急時の連絡体制について整備されているか。
□	医薬品などの準備はできているか。
□	当番医の確認や、医療機関への連絡体制は整っているか。
□	避難場所の確認はできているか。
□	RICE処理やテーピングなどの応急処置について、理解しているか。

5　実際にあった事故やヒヤリ・ハット事例を記載

〇保護者が張ったテントが強風に飛ばされた。

【未然防止の対応】

資料NO. ２－３

「危機管理マニュアル（事故・感染症等防止のための安全チェックリスト）」

専門部名	会場名	チェック日	記載責任者
専門部		月　日（　）	（　　）

１　WBGT指数を記載

時刻	WBGT値	計測者氏名	時刻	WBGT値	計測者氏名	時刻	WBGT値	計測者氏名
8:00			11:00			14:00		
9:00			12:00			15:00		
10:00			13:00			16:00		

２　代表的な事故例

これまでの事例や、日頃のヒヤリ・ハット体験等を参考にまとめる。

①
②
③
④
⑤

・大きな事故例はもちろん、最近起きた事故例なども記載すること。
・ヒヤリハット事例を見逃さず記載。

３　施設・設備・用具チェック

安全管理の徹底をする！

□
□
□
□
□
□
□
□
□

【体育館】①床の滑りすぎ②床の破損・ささくれ③金具の変形及び開閉不良④ギャライー部の防護枠の損傷⑤照明器具⑥畳の損傷等
【グランド】①極端な凸凹の有無②ガラス、石、釘等の危険物の有無③側溝のふたや角による危険等
【バックネット】①基礎部分の損傷②支柱のぐらつき、損傷、腐食③ネット、ワイヤーの損傷等
※指導者と生徒が共に施設・設備の安全点検を行うことも重要！

４　活動チェック

常に危機意識を持って！

□
□
□
□
□
□
□

・事故は人的要因や環境的要因がある。
【人的要因】健康衛生管理に関すること、競技の特性にあったもの、ルール禁じ技等の使用等
【環境要因】天候、自然現象、施設設備の状態等

５　救急体制

備えあれば憂いなし！

□
□
□
□
□
□

６　実際にあった事故やヒヤリ・ハット事例を記載

【緊急事態発生時の対応】　「危機管理マニュアル（組織図）」

資料NO. 3

事故発生

県中体連事務局　：　会長　理事長　事務局長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿専門部

部　長　：　（　　）【携帯　　－　　－　　】

競技委員長：（　　）【携帯　　－　　－　　】

雷・竜巻・大雨・Jアラート・光化学スモッグ発生時マニュアル

注意報発令

状況・安全確認

※決定者を明確に！

★競技継続・変更・中断・中止決定
大会責任者：
（　　）
会場責任者：
（　　）

※一次避難場所を事前にチェックしておくこと！
避難場所：（　　）

★誘導
全体指示：
（　　）
誘導：
（　　）

会場安全確認

★会場安全確認
会場係責任者：
（　　）

地震（Jアラート）発生時マニュアル

地震発生

状況・安全確認

安全確保

★安全確保
全体指示：
（　　）

待機・避難指示

★待機・避難決定
責任者：
（　　）

避難誘導
（全教員）

★避難場所
（　　）

人員確認・安全確認
（各顧問）

帰宅指示

★帰宅指示
責任者：
（　　）

不審者（侵入・発見）対応マニュアル

※巡視体制を整える！

不審人物確認

応援要請
本部報告

退去要請
不審者対応（確保）

★防犯係
責任者：
（　　）
メンバー：
（　　）

全体指示

★全体指示
責任者：
（　　）

警察等通報

★通報
責任者：
（　　）

急病者・負傷者対応マニュアル

※事前にチェック！
救急バック準備
医療機関連絡先
AED・消火器場所確認

★救護係
責任者：
（　　）

事故発生

救急搬送決定

★救急搬送決定
責任者：
（　　）

救急者誘導時

★全体指示
責任者：
（　　）

急病者・負傷者が出た場合は、対応マニュアルに準ずる

留意点

①危機に既応できるよう、事故発生時の初期対応について明確にする。
②緊急時に既応する組織体制を整え、役割分担を明らかにする。
③緊急時の連絡体制（保護者、学校、各専門部、大会本部）を明確にする。

【緊急事態発生時の対応】　「危機管理マニュアル（自然災害発生時）」

資料NO．４

＜事前の備え＞
（1）事前に気象情報を確認し、天気予報を把握しておく。
　・宇都宮地方気象台
　・気象庁ホームページ（ナウキャスト）
　．各学校の部活動、各専門部の緊急連絡方法（一斉メール・HP掲載等）、集合場所などを確認させる。
（2）自然災害に対する対処法や備えの心得など知っておく。

落雷・竜巻・集中豪雨・台風・光化学スモッグ・PM2．5・Jアラート等の注意報や警報等発令された場合、

チェック1

変更・中断・中止などの対応が必要

必要なし → 大会継続

□気象情報を定期的に確認する。

□落雷・竜巻の予兆があった場合は、屋外での活動を直ちに中止し、危険性がなくなると判断されるまで、参加者を安全な場所に避難させる。
□天候の急変等の場合には、迷うことなく計画の変更・中断・中止等の措置を講じる。

必要

対応1

一時避難

専門部長の判断により適切な対応をとる。
※避難場所は、事前に施設管理者に確認しておくこと！

チェック2

大会の継続が可能か？

変更

対応2

大会の予定を変更して実施

□変更内容を会場内に伝え、安全面を確保した上で再開する。

中止

中断

□専門部長（会場主任）の責任において、的確な状況判断を行う。
□気象の情報を確認する。
□雷の場合は、音が聞こえなくなった後、30分～1時間程度は再開せず、安全を確保する。
□大会を再開する場合は、会場の安全確保を行ってから実施する。

対応3

チェック3

大会の継続が可能か？

継続不可能 → 大会の中止

□気象情報を確認し、帰宅指示

可能 → 大会継続

状況によっては会場待機で保護者へ連絡！

帰校・帰宅

【緊急事態発生時の対応】　「危機管理マニュアル（地震発生時）」

資料NO．５

＜事前の備え＞
（1）連絡系統の確立
①携帯電話メールアドレスの把握
②災害用伝言サービスの活用方法の確認
③各学校の部活動、各専門部の緊急連絡方法や集合場所などを確認させる。
（2）災害発生時の対応方法の検討
①避難経路・避難場所の確認

地震（Jアラート）発生

対応1　身の回りの安全確保

チェック1　負傷者がいるか？

チェック2　負傷していない

いる → 負傷者救出 → 災害発生マニュアル（急病者・負傷者発生時）に従う

□安全を確保し、手当を行う
□必要に応じて119番通報
□保護者・学校（管理職）等への連絡

避難が必要か？

大会継続　必要なし

必要

□出入り口確認
□破損状況や避難経路を確認し、避難指示（但し、施設係員からの指示があればそちらを尊重する。）
□火災がある場合は、119番に通報

対応2　避難行動

※揺れがおさまってから、落ち着いて行動！

□安全な場所へ避難誘導　□人員点呼　□安全確認　□応急手当

一次避難

大会によって、会場が異なるため、その都度、避難場所を確認しておくこと！

チェック3　大会の継続が可能か？

可能 → 大会継続

□専門部長の責任において、的確な状況判断を行う。
□人的環境的に甚大な被害が生じた場合は中止とする。
□現場での決定が難しい場合は、中体連事務局に相談する。
□県中体連会長の判断で、大会の一部、または全部を中止する場合がある。

□会場の安全点検
□余震等注意

継続不可能

大会の中止

対応3　生徒の帰宅対応

□生徒の帰宅方法を検討し、可能な限り早急に帰宅させる。（状況によっては帰宅が不可能な場合もある。）
□家庭または学校へ連絡が可能であれば安否連絡を行う。
□家庭に連絡が取れた場合は帰宅方法を確認し、安全な方法を相談する。（可能な限り保護者に迎えに来てもらうことが望ましい。）
□家庭と連絡が取れない場合には、生徒のみで帰宅させるか、そのまま待機させるか慎重かつ迅速に最も安全な状況判断をする。
□場合によっては、警察や消防役所職員の指示に従う。

【緊急事態発生時の対応】　「危機管理マニュアル（不審者侵入時）」

資料NO．６

※日頃から見回りの体制を整える。（応援席にいる副顧問や保護者の活用）

防犯係集合！
危険性を考慮し、十分注意して行動する。
現場は複数で行き、絶対に無理はしない！

関係者以外の会場への立ち入り

間合いをとり声をかける。

「こんにちは。
何かご用ですか？」

チェック1　不審者かどうか？

→ 案内する

正当な理由がない。

正当な理由あり。

対応1　退去を求める

退去した

再び侵入したか？

侵入しない

特徴を把握しながら声をかける。

「申し訳ございませんが、お帰り下さい。」

退去しない

再び侵入した

チェック2　危害を加える恐れは？

ない → 退去を求める

チェック3　退去したか？

退去しない

した

恐れがある

「お話を伺いますのでこちらにお越し下さい。」

対応2　隔離・通報する

- □会場責任者へ連絡
- □暴力行為抑止と退去説得
- □110番通報
- □別室等へ案内隔離

対応3　子どもたちの安全を守る

- □防御（暴力の防止と被害拡大の防止）
- □移動阻止
- □会場全体への周知
- □避難誘導
- □専門委員（教員）の役割分担と連携
- □警察による保護・逮捕

チェック3　負傷者がいるか？

→ いない

いる

対応4　応急手当などをする

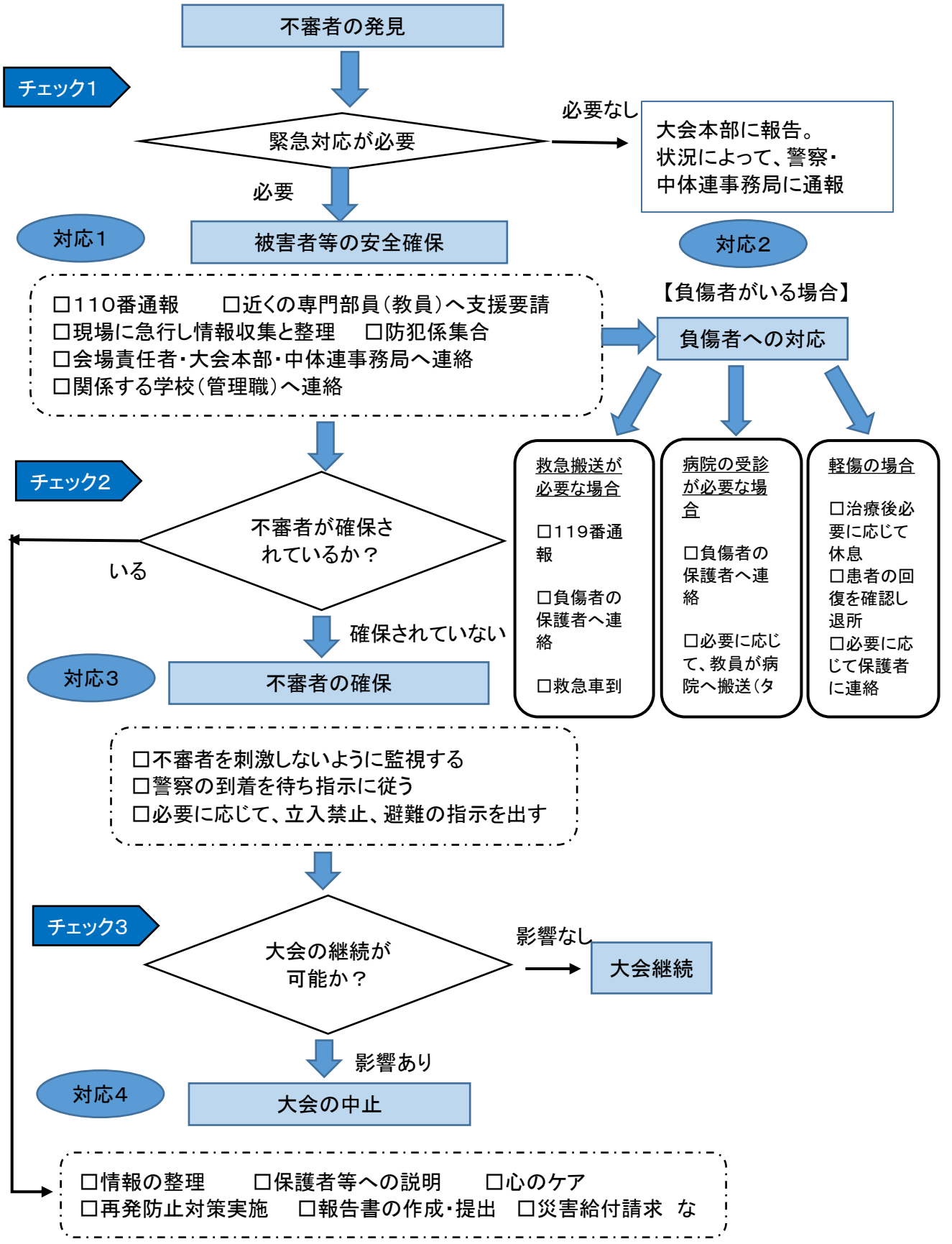
- □速やかに119番通報
- □救急車到着まで応急手当
- □被害者等の心のケア着手
- □保護者への連絡

対応5　事故後の対応に取り組む

- □情報の整理
- □保護者等への説明
- □心のケア
- □再発防止対策実施
- □報告書の作成・提出
- □災害給付請求

【緊急事態発生時の対応】　「危機管理マニュアル（不審者発見時）」

資料NO. 7



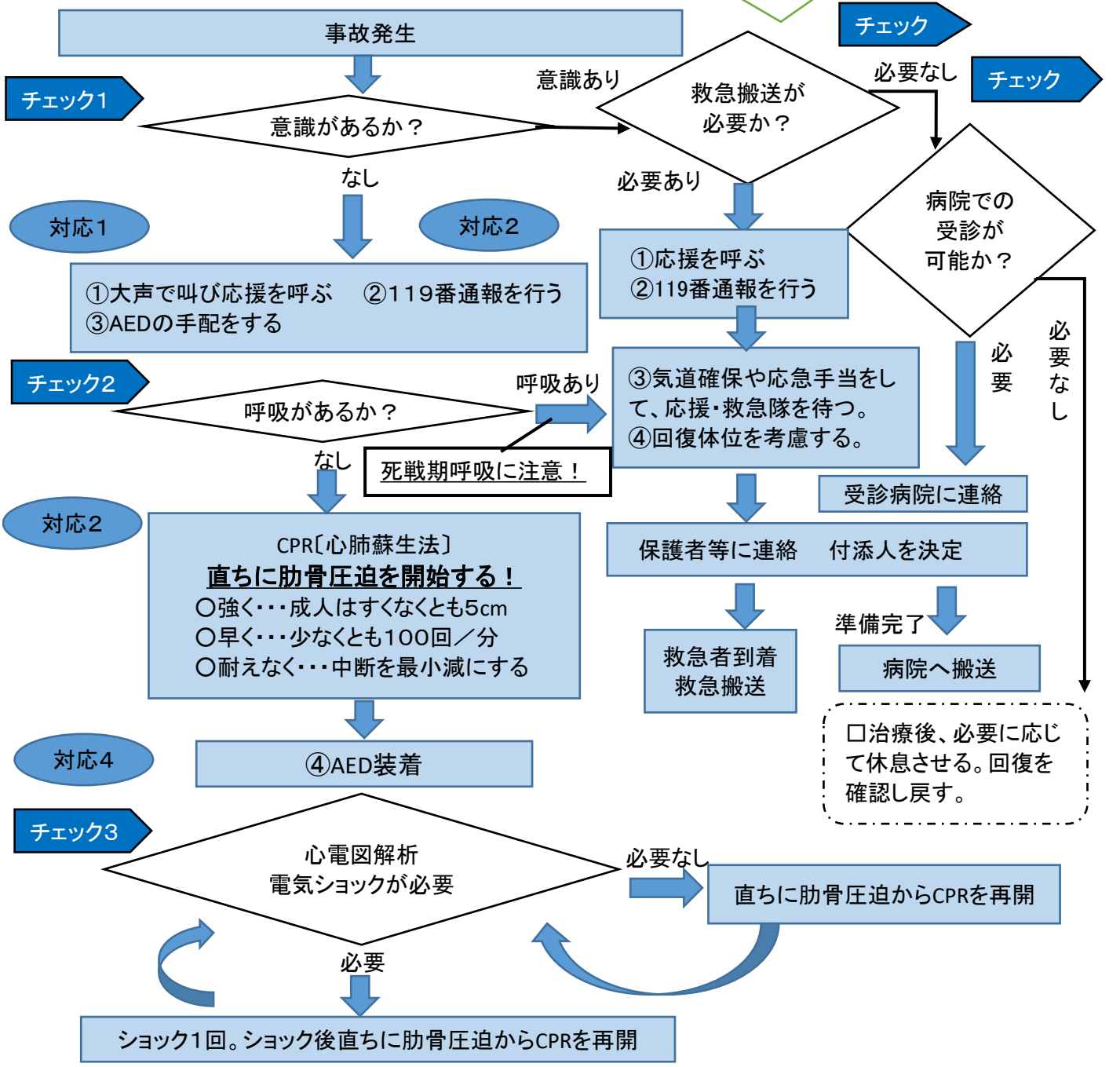
【緊急事態発生時の対応】　「危機管理マニュアル（急病者・負傷者発生時）」　資料NO. 8

＜事前の備え＞
（1）緊急時の、医療機関の連絡先、事案発生時の救急車要請基準、医療機関に引き継ぐまでの手順について明確にし、専門部内で共通理解を図っておくこと。
（2）障害のある生徒や、要生活管理を必要とする生徒については、緊急時の対応方法について、事前に共通理解をしておき、保護者や副顧問などの協力を得ながら管理を行うこと。
（3）専門部が、一時救命処置を理解し、対応することが望ましい。

＜医療機関の連絡先＞
内科：
歯科：
眼科：
脳神経外科：
整形外科：
総合病院：

・心肺停止・呼吸停止の状態・意識障害・ショック症状（蒼白・脱力感・脈異常、冷汗・あくび等）痙攣が持続、・多量出血・骨の変形・広範囲のやけど等

専門部長の判断により適切な対応をとる。



救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまでCPRを続ける。
”強く・早く・絶え間ない胸骨圧迫を！